

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

アスフィール株式会社

【サービス名称】

部活アプリ / クラブマネージャー

【サービスの支援項目】

カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス



2026年1月

■ 探究・校務改革支援サービスの概要



1,000名以上の部活動関係者の声を基に開発。
部活動における「連絡・コミュニケーション」と「学びの記録」を支援するクラウドサービス。
アプリ導入時には機能概要や他クラブにおける活用事例共有のためのオンライン説明会を実施。
使用いただく中で生じた疑問点や不具合解消のため、フォーム連絡や電話でサポートを行う。

連絡・コミュニケーション

チーム連絡

- ・アプリ内で連絡が可能
- ・既読者の確認が可能
- ・個別の連絡先交換は不要
- ・1対1の個別連絡を制限した設計
- ・教職員は生徒間のやり取りも全て確認可能



スケジュール

- ・スケジュールの管理・共有
- ・一括登録、出欠管理機能等、便利な機能多数あり



学びの記録

個人記録

- ・活動の記録・振り返りツール
- ・日々の目標達成度をグラフに可視化
- ・「活動内容」「気づき、学び」「次に向けて」等を記入しチーム内で共有が可能



チーム記録

- ・大会やコンクールの結果共有
- ・活動記録を保護者が閲覧可能
- ・写真・動画も掲載可能



データ活用

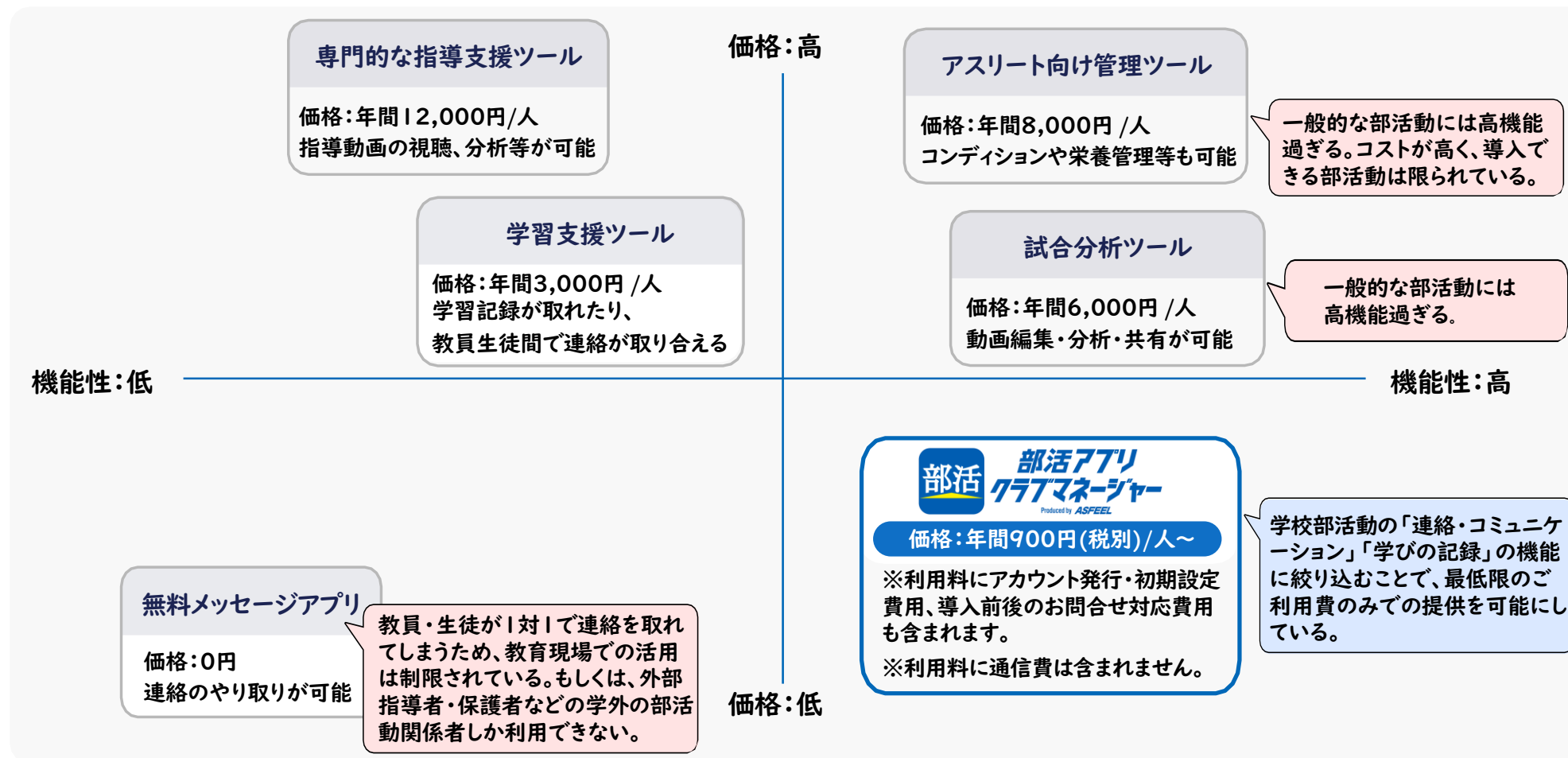
MYヒストリー

- ・アプリに蓄積したデータをPDFファイルで出力
- ・思い出だけでなく、進学や就活での提出資料として幅広く活用可能。



本サービスの独自性

- 部活動における「連絡・コミュニケーション」と「学びの記録」をローコストで支援する類似サービスは部活動現場に普及していない。
- 当社は、予算の潤沢な部活動に限らず、幅広い学校現場・地域への社会実装を目指し、既存のビジネスと掛け合わせて短期的な利益ではなく、中長期的に腰を据えて本事業に取り組んでいる。



■ 学校等教育機関の課題と解決策

部活動への所属率は中高で8割を超え、多くの時間を費やす活動であるが、活動の記録を残す取り組みを行っている人は少ない。これらを管理する教職員も忙しいため業務を増やして対応することもできず、日々の業務もどう時短・効率化したら良いかわからない状況にあるという課題を本サービスで解決する。

児童生徒・教職員が抱える課題

教職員：日々の業務が忙しい。時短・効率化の方法がわからない

【原因1】アナログなコミュニケーション

2024年当社調査において、ICTツールを用いた連絡を行っていないと回答した教職員は55.6%におよび、プリント配布・口頭伝達が、部活動で最も多い連絡・活動予定の共有方法となっていることが推測される。

【原因2】教職員・生徒・外部指導者・保護者間の連絡手段の不足

携帯電話番号やメールアドレス等の連絡先交換や無料メッセージアプリ等の利用は、文部科学省を通じ各都道府県の教育委員会へ禁止の通達がされている。一方で、生徒と教職員が個別で連絡可能であるために禁止通達がされている無料メッセージアプリ等の連絡手段を、教職員の約10人に1人が利用しているのが実態である。(2024年当社調査の結果)

生徒：活動記録が残らない

【背景】

学習ログの蓄積や、大学入試等における多面的評価が求められている一方で、課外活動の中心である部活動の活動プロセスの記録は殆ど残されていない。現場の教職員に伺うと、入試時や卒業時に必要に駆られて、顧問や担任が急いで取りまとめている実情がある。

サービスが果たす役割

連絡・コミュニケーションの効率化

「チーム連絡」「スケジュール」機能で、アナログ共有だった連絡・活動予定の共有をデジタル化し、効率化・負担軽減を実現。

チーム連絡機能においては、生徒と教職員の1対1の個別連絡を制限する・生徒間のやりとりも教職員はすべて確認可能な機能により、安心安全な環境下で連絡・コミュニケーションを効率化できる。スケジュール機能においては、予定の共有だけではなく、出欠連絡も本アプリ内で完結できるため、業務の効率化を図れる。

学びの記録支援

「個人記録」「チーム記録」「目標管理」機能で個人やチームの活動記録や振り返りを実践・習慣化。部活動における学びの質向上を図る。

用意された質問に答えるだけで適切な難易度の目標が完成する機能を要しており、決められた期間において目標を意識して活動、記録を繰り返すことができ、自身でPDCAサイクルを回す習慣を実現する。

サービスの活用風景・授業の流れ

連絡・コミュニケーションの効率化

教職員の抱える日々の業務は忙しいが、どう時短・効率化したら良いか分からないという課題解決の役割を果たす。

「チーム連絡」「スケジュール」「機能で、アナログ共有だった連絡・活動予定の共有をデジタル化し、効率化・負担軽減を実現。

チーム連絡



スケジュール管理・共有



出欠確認



学びの記録支援

生徒の活動記録が残らないという課題解決の役割を果たす。

「個人記録」「チーム記録」「目標管理」機能で個人やチームの活動記録や振り返りを実践・習慣化。部活動における学びの質向上を図る。

個人記録



チーム記録



運動部では練習後の振り返り、文化部では作品の途中経過の記録に利用されることが多かった。



本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	5	学校等教育機関数	18校
--------	---	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	文京区教育委員会	文京区立第三中学校	東京都	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
2	文京区教育委員会	文京区立第六中学校	東京都	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
3	文京区教育委員会	文京区立文林中学校	東京都	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
4	文京区教育委員会	文京区立茗台中学校	東京都	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
5	文京区教育委員会	文京区立本郷台中学校	東京都	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
6	文京区教育委員会	文京区立音羽中学校	東京都	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
7	扶桑町教育委員会	扶桑町立扶桑中学校	愛知県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
8	扶桑町教育委員会	扶桑町立扶桑北中学校	愛知県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
9	近江八幡市教育委員会	近江八幡市立八幡中学校	滋賀県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	5	学校等教育機関数	18校
--------	---	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
10	近江八幡市教育委員会	近江八幡市立八幡東中学校	滋賀県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
11	近江八幡市教育委員会	近江八幡市立八幡西中学校	滋賀県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
12	近江八幡市教育委員会	近江八幡市立安土中学校	滋賀県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
13	東松島市教育委員会	東松島市立矢本第一中学校	宮城県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
14	東松島市教育委員会	東松島市立矢本第二中学校	宮城県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
15	東松島市教育委員会	東松島市立鳴瀬未来中学校	宮城県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
16	栃木県教育委員会	栃木県立佐野高等学校附属中学校	栃木県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
17	栃木県教育委員会	栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校	栃木県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導
18	栃木県教育委員会	栃木県立矢板東高等学校附属中学校	栃木県	中学校	1～3年	部活動・クラブ活動・児童会・生徒指導

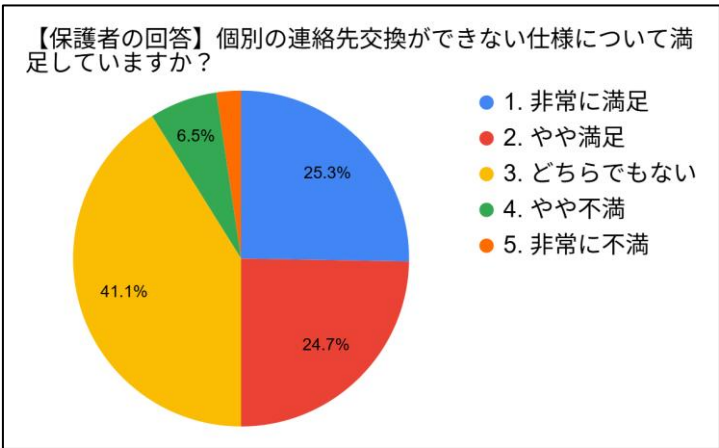
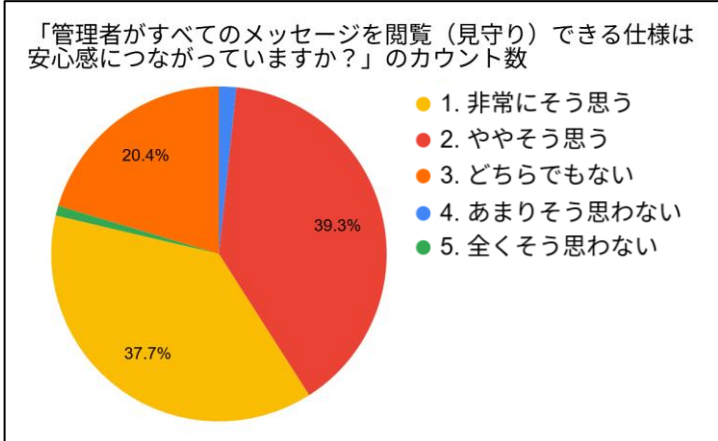
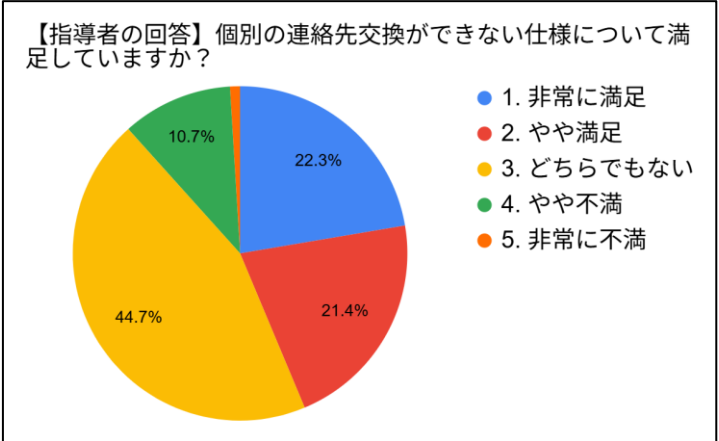
【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

「チーム連絡」機能

連絡・コミュニケーションにおける安心感

- 個別の連絡先交換ができない仕様について、不満がある割合は指導者・保護者ともに1割程度であり、個別連絡を行う利便性よりも管理者がメッセージを閲覧でき、1対1の個別連絡ができないことによる安心感が重要といえる。
- 教育現場での無料メッセージアプリ等が制限される中で、部活動・クラブ活動現場での、外部指導者や保護者も含めた公立的な連絡手段としての活用が期待できる。



部活アプリ/クラブマネージャーをご利用中の指導者・管理者122名、生徒保護者824名の合計946名より回答

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

「チーム連絡」機能

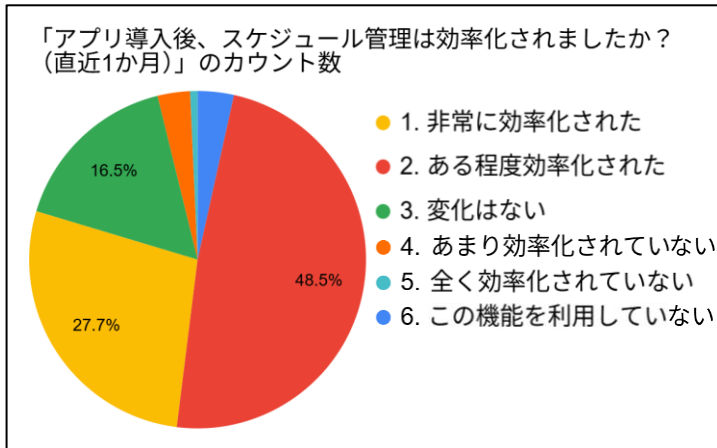
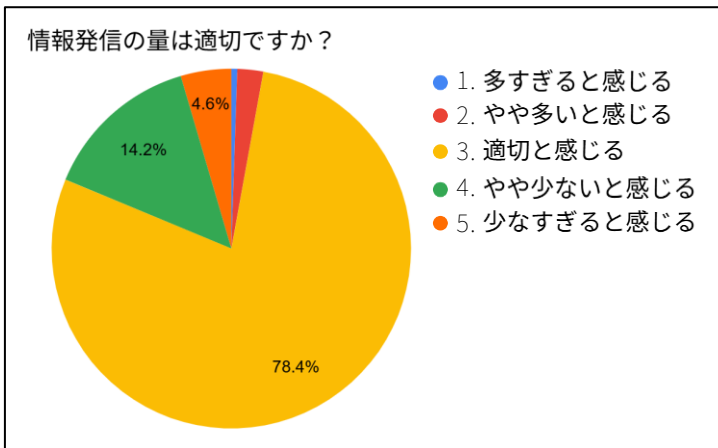
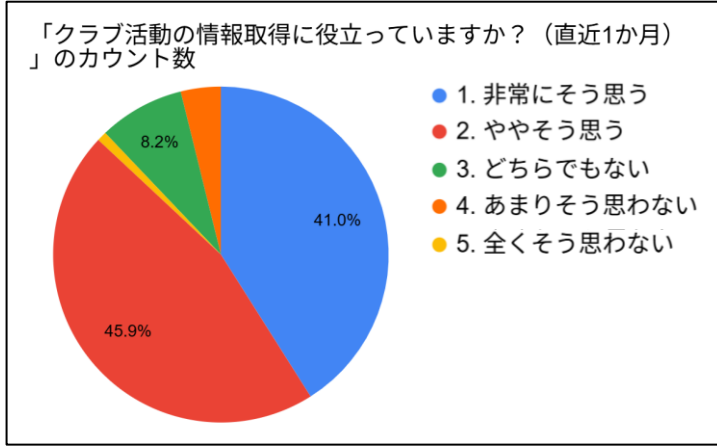
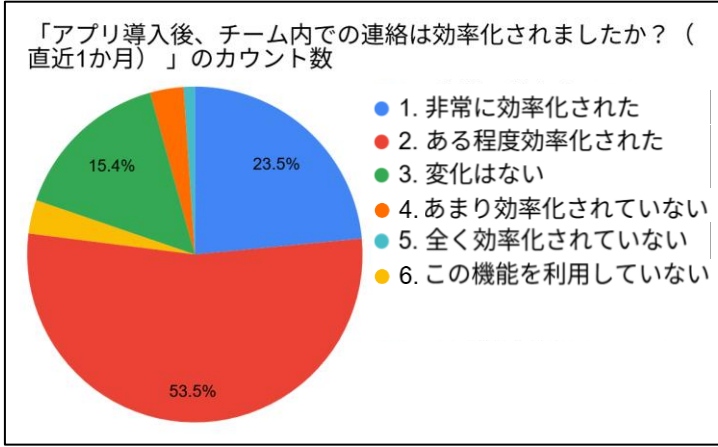
「スケジュール」機能

連絡・コミュニケーションの効率化

- チーム連絡機能を使って生徒・教職員・保護者間の連絡を取り合うことで、チーム連絡の効率化が図られるだけでなく、部活動・クラブ活動における大小さまざまな情報の取得に役立てられた。
- 紙でのお知らせを作成する時間が省けるため、教職員の忙しい業務の中でも情報発信の頻度も高められ、保護者の安心感・満足度も高められる。

スケジュール管理の効率化

- 部活アプリ導入によりスケジュールの管理が効率化されたため、教職員の業務時間の削減につながられたと考える。



部活アプリ/クラブマネージャーをご利用中の指導者・管理者122名、生徒保護者824名の合計946名より回答

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

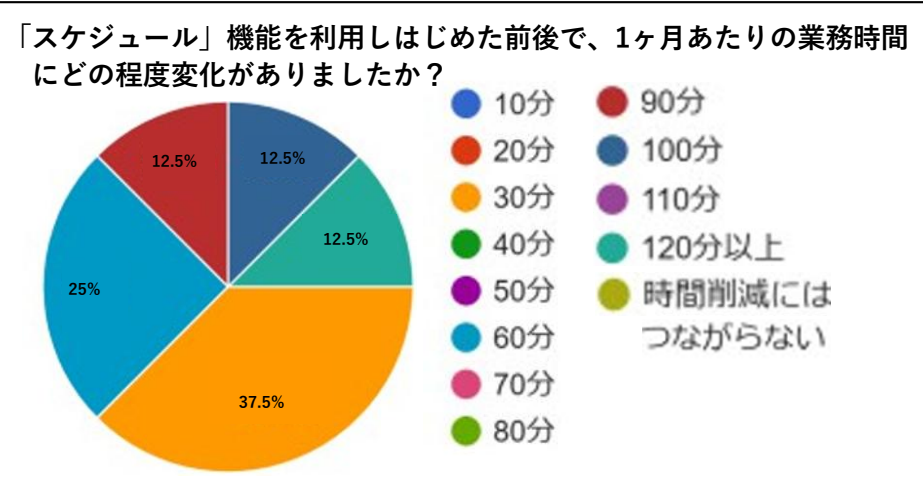
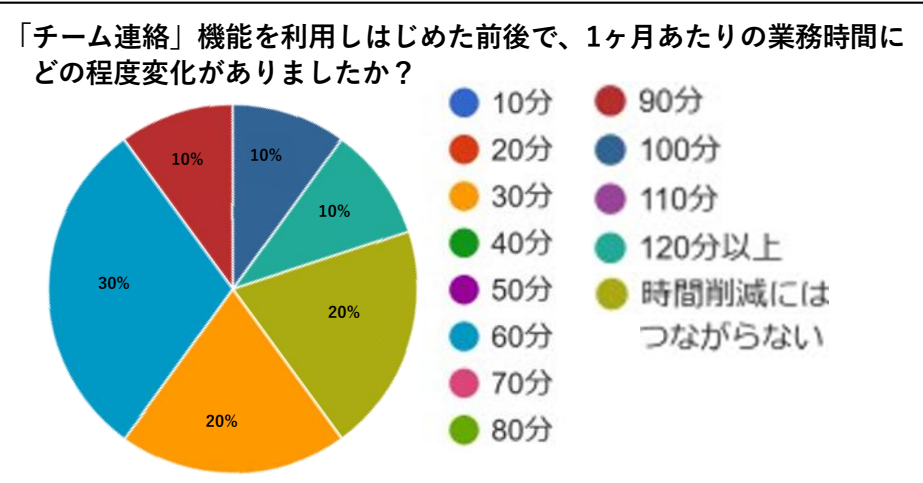
定量的効果検証

「チーム連絡」機能

「スケジュール」機能

教職員業務の時短化

- 部活アプリの各機能を利用することで下記の業務時間短縮に成功した。
 - チーム連絡機能:約46分/月
 - スケジュール機能:約54分/月
- チーム連絡機能においては、一斉連絡ができ既読確認を行えること、出欠回答を一覧で確認でき、思いついた時にすぐに連絡できることで時短につなげることができた。
- スケジュール機能に関しては、プリントを印刷したり、クラスごとに連絡をおこなったりする手間が省けたことで時短につなげることができた。



部活アプリ/クラブマネージャーをご利用中の指導者・管理者10名より回答(2024年度当社調査)

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

「個人記録」機能

「チーム記録」機能

学びの記録支援

- 個人記録の利用を行うことで、自身の活動を振り返る時間が設けられ、課題や改善点の発見の機会が生み出されているとの声が上がった。
- またその結果として、活動の充実や意欲向上、目標を意識した活動につながっていると考えられる。
- アナログ媒体の部活ノート等での記録と異なり、他のメンバーや指導者の記録を閲覧できることで、相互に刺激が生まれ、活動の活性化の効果も期待される。
- 蓄積された活動記録を進学・就職等で活用したいという声もあり、活動記録の保存・活用に対するニーズの高さがうかがえた。

部活アプリ/クラブマネージャーの個人記録・チーム記録機能を利用している保護者19名の回答

個人記録



チーム記録



【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

「チーム連絡」機能

■個別グループの作成により、部活動・クラブ活動内のやりとりが活性化

- チーム連絡機能において、メンバーを指定した個別グループが作成できるため、部活動・クラブ活動内での連絡が活性化された。
- 指導者だけの連絡グループを作成して運用することで、部活動・地域クラブ活動の状況把握やタスク管理に役立てられた。

「スケジュール」機能

■予定変更や緊急連絡の伝達が効率化

- スケジュールの変更を行った際にアプリ上にお知らせ通知が届くため、先生から生徒への個別連絡の手間が省け、業務の効率化と伝達ミス削減につながった。
- 不明点があった場合などは、チーム連絡機能を用いて簡単に先生と生徒・保護者間のやりとりが可能のため、変更通知と合わせて部内全体での共通認識を同時に図れるようになった。
- アナログなコミュニケーション方法だと時間と正確性にかかる課題の解決が見込まれた。

グループ一覧	+作成する
全体 (8) 2026年1月27日 15:09	>
指導者グループ (2) 2026年1月27日 15:09	>
3年生グループ (4)	>
2年生グループ (4) 2026年1月27日 15:09	>
1年生グループ (4) 2026年1月27日 15:08	>

<	お知らせ
統括者からのお知らせ	
熱中症アラート発令のお知らせ 2026/1/21(水) 15:50	
チームからのお知らせ	
スケジュールが更新されました 2025/12/3(水) 12:01	

連絡・コミュニケーションの効率化

生徒

- スケジュール表は従来プリント配布だったが、アプリでいつでも確認できて便利。
- チームの課題や改善点を見つけることが出来た。
- 今までは口頭で休みや遅刻の連絡でしたが、チーム連絡が出来るおかげで助かりました。
- 自分の感想や目指すものを明確にして取り組むことができた。

保護者

- とても画期的なアプリだと思うので、利用を継続したい。
- 保護者の立場ではスケジュール管理がしやすくなりました。先生（管理者）の手間が増えていなければ継続利用してほしいです。
- メッセージを送るまでもないが確認したことやお礼を共有できる、メッセージに対してのいいね機能があると良い。
- 学校側から連絡は来るが、個人的に回答がほしい場合に、他の方からもやりとりが見られてしまうため、質問をするのをやめたことがあった。学校側に個人的にメッセージを送れるとまたいろいろと問題があるのだと思うが、出欠連絡のような形で質問できる機能があってもいいのかなと思う。

教員

- これまでは「くらぶだより」を発行し、保護者の方々へ日頃の活動報告を行っていたが、顧問が頻繁に発行することは物理的・時間的に難しく、内容がタイムリーでない点や画像が不鮮明というデメリットがあった。アプリを活用することで、部員自身が日々の活動を投稿できて情報更新が早く、動画・写真で臨場感も伝わるため保護者の理解が深まり、部の運営もスムーズになった。また、部内のSNSとしても活用し、コミュニケーションが深まった。さらに、行事連絡など部員・保護者双方が確実に情報を確認できるので、不測の事態を防止できている。
- イベント出演があるとレポート用紙へ反省点を記入して顧問とコミュニケーションを図っていたが、顧問によるチェックが追いつかず、未読のレポートが発生していた。アプリ導入後は、部員がその場でアプリにすぐに記録できるようになり、顧問も内容が見やすいため、確認・返信がスピーディーにできるようになった。紙と違って過去の記録もさかのぼりやすく、備忘録としても活用できている。

■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

教職員のITリテラシーや部活動員の活用率等に依存して、アナログコミュニケーションが発生する課題が残る。そのため、操作性やデザイン性を向上させ、解決を図る。また、学び・成長の記録の利活用方法、それらを支援できる機能開発・体制を引き続き模索していく。

直面した課題

① 教職員のデジタルツールに対するリテラシーの差

- 顧問の教職員が予定を入力しないために、生徒・保護者がアプリを活用したくても活かしきれないなど、教職員側の活用意識に左右される部分が出てしまう。

② アナログ媒体とアプリの併存によるコミュニケーション課題

- 学校への資料提出や家庭からの希望で紙媒体でのスケジュール提出が必要となる場合もあり、アプリ内で完結できず、二重の作業が発生してしまうことがある。
- 一部生徒がアプリの活用をしないことにより、アナログなコミュニケーションが発生してしまう。

③ 学び・成長の記録の利活用方法の模索

- 本アプリに継続的に蓄積される、部活動・クラブ活動の活動計画や生徒の学びの記録を、より生徒の成長やキャリアにつながる形で利活用する方法の確立、実装することを目指す。

解決するための改善策

①② 操作性・デザイン性の向上

- 教育現場からのフィードバック、UIUXの専門家の意見を取り入れ、各機能を誰でも直感的に理解できるような設計にし、利便性・操作性を向上する。
- スケジュールや提出資料をアプリ画面を印刷するだけで対象の資料が完成するような仕様を検討する。
- 学校側でもデジタル提出できるような仕組みや環境の構築をアナウンスしていく。

③ 部活動の地域展開における生徒の教育機会の確保

- 今後、部活動の地域展開が本格化するにつれ、中学生の部活動との関わり方が変化していく。そうした時代の変化において利便性だけでなく、学びある活動を支援できる機能開発を進めていく。

■会社概要

社名	アスフィール株式会社
代表	代表取締役 山本浩明
設立年月	1993年10月
本社	山梨県甲府市青沼3-17-15
資本金等	1000万円
売上高等	21,2億円
従業員数	50名
事業内容	全国の大学、高校、中学校、小学校などを対象としてECサイト・カタログを通して、クラスTシャツ、卒業証書、卒業記念品、コサージュなど学校向けの様々な商品を販売。 また、全国約100自治体・2,000校以上への部活動支援アプリの提供を行ったり、連盟ホームページの作成、学校×地域プラットフォームの作成、人材バンクの構築など、ITソリューションの企画・開発を行っている。

■お問い合わせ窓口

担当:アスフィール株式会社 学校デジタル支援事業部

電話: 0120-980-393

Mail: info@bukatsu.jp